



「手厚い保育で安心してお任せできる」

一児（2歳の女児）の母
馬場 直子 医師
血液内科・一般内科

どんぐり保育園病児保育室は、喘息のある娘の急な体調不良にも対応してくれるので助かっています。保育士さんはいつも優しく付きっきりで見てもらえるので安心してお任せすることができます。娘も病児保育室が大好きでお迎えに行くと保育士さんと一緒に手作りしたおもちゃを見せてくれます。仕事と育児の両立は大変ですが、一人で抱え込まず、周りの医師やスタッフの理解・協力を得ることや、病児保育のような子育て支援のサービスや制度を活用することで子育てしながら、医師としてのキャリアを積み上げていきたいです。

1 保育室内はお子さんが安心して過ごせるような工夫がいっぱい
2 新しく増築されたプレハブの病児保育室外観



“円滑なコミュニケーションが働きやすく、やりがいのある職場をつくる。”



保育士さんたちの手作りの壁面装飾は愛情たっぷり♡子どもたちも笑顔に

「病児保育室がある安心感から心の余裕が生まれる」

二児（5歳の男児・3歳女児）の母
安部 沙織 医師
一般内科・膠原病リウマチ科

外来診療日は子どもの調子が悪くならないか不安でしたが、今はいつでも受け入れてくれる病児保育があるという安心感があります。また、体調の悪い子どもを預けることに罪悪感がありましたが、『どんぐり保育園大好き♪』と、病児保育室に行きたがる子どもたちにはほっとしました。病児保育室で手厚くきめ細やかな対応してくれる保育士さんには感謝しています。子育ては1人で頑張らず、頼れるものは頼り、心にゆとりを持って今後も医師として頑張りたいと思っています。



病児保育担当者に聞きました

Q 病児保育室を増築して良かったことは何ですか？

A 感染症ごとにお部屋を分けたい時や、利用希望者が重なった時に助かっています。

Q 病児を預かるうえで気を付けていることは何ですか？

A 中にはお預かりが難しいこともあるので、注意深く聴き取りを行うように気を付けています。感染症等が疑われる場合には、同室内にいる児童や職員への感染を避けなければならないため、他児と部屋を分けて保育者を専任にして保育しています。

Q 苦心されていることや、印象に残っていることがあればお聞かせください。

A 最初は泣きながら来るお子さんでも、最後には笑顔になってもらえるよう気を配っています。お陰でリピーターも多いです。遊びも、その日の体調や好みに合わせて、ゆったり過ごせるようにと考えています。また、小さいときは泣いていた子が、泣かずに来られるようになったときなどに成長を感じます。

私たち、経験あるスタッフが医療的視野を持ちながら、サポートすることで、安心してもらえていると思います。また、子どもの目線も大切にしています。必要としてくれる人がいる限り、続けていきたいと思っています！



山下ひとみ先生 [看護師]
國澤優さん [取手市医師会「どんぐり保育園」担当]

病児保育を利用する具体的手順

①事前登録
1歳前後でお守り代わりに登録する方が多いです。



②面談
アレルギーの有無や、保育に必要な細かいことをお聞きます。



③利用当日
事前にかかりつけ医で診察を受け、保育OKであれば、利用可能。前日と当日の様子（熱・睡眠・食事など）を詳しく聞き取ります。給食も出ますが、喉越しの良いゼリーなど持参することもできます。



●事業に関するお問い合わせご相談は

茨城県医師会
女性医師等就業支援相談窓口

0120-107-467 [月～金]9:00～17:00
※土日祝日及び年末年始はお休みです
<http://www.ibaraki.med.or.jp/women/>

●医療機関の勤務環境改善に関するご相談は

茨城県医療勤務
環境改善支援センター

029-303-5012 [月～金]9:00～17:00
※土日祝日及び年末年始はお休みです
<http://www.ibaraki.med.or.jp/kinmu-kankyo/>

TRY 病児保育 支援プロジェクト

IN-HOSPITAL CHILD CARE
Support Project

茨城県
取手市野々井1926
0297-78-6111

公益社団法人 取手市医師会

取手北相馬保健医療センター医師会病院

地域医療の中心的役割を担う地域医療支援病院



頭文字を結ぶとHeart(心・優しさ)で、
地域医療における私たちの心の理念です。

Hospitality 優しさに溢れた医療
Efficient 迅速で効率的な医療
Academic 向学心に満ちた医療
Regional 充実した地域医療
Trustful 信頼感のある医療

安心して医療が受けられるよう、地域医療・救急医療体制の充実に努め、診療のみならず健康診断などの保健予防活動にも積極的に取り組む医療機関です。

DATA

[医師数] 17.25人 ※常勤換算

[看護師数] 128.06人 ※常勤換算

[総病床数] [入院患者数] [外来患者数]
177床 77.3人 194.32人
※うち一般病床数107床 ※1日平均一般病床のみ ※1日平均月一土曜日



働きやすい環境づくりがチーム医療を支える

鈴木 武樹 病院長

仕事の面では女医だからといって特別扱いはしません。それは逆差別につながるから。それでも、出産育児の時期には全力でサポートする体制を考えています。それはどの職種に対しても同じ考えです。病児保育もその一つです。それによって、医師に限らず、職員が子どもの病気で休まなくても済むようになりました。新型コロナで世間が騒がしくなる前のことですが、忘年会の時、子育て中の職員や、普段は子どもたちを預かっている保育士も皆が参加できるように、子どもたちの世話を外部の託児サービス会社に委託したことがあります。また、忘年会では縁の下の力持ちとしてその年に活躍した人を職員の投票によって表彰するなど、対等に意見の言い合える

関係を大切にしています。院内のコミュニケーションを図ることが、円滑な人間関係を生み、病院全体の士気が上がることにつながるのです。風邪の時期など、保育士が足りない時には、病児専任看護師等が手伝いに入るなど互いに助け合えるのも、相互理解の結果といえます。おかげで職員の満足度調査の結果も上々で離職率も下がりました。それがひいてはより良いチーム医療の提供に繋がるものと考えています。



↑左から野口 龍一 事務局長・藤田 あけみ 看護部長・鈴木 武樹 病院長

取手北相馬保健医療センター
医師会病院
鈴木 武樹 病院長
外科
医学博士

